

「県総体から夏休み、運動会、受験へ」

校長 沖 田 浩 史

今年も、松山東高校は、県総体においてめざましい活躍を見せてくれました。いろいろな部活動が、インタハイや四国大会出場を果たし、四国大会出場ができなかった部活動でも、決してあきらめることなく、精一杯頑張った結果、悔いのない試合、やりきった試合が多かったのではないかと思います。東高生にとって、運動部・文化部ともに、学習との両立は、本当に大変なことです。部活動を通して味わった試練や感動が、仲間との絆を深め、自分の自信や経験値となって、皆さんを、より成長させてくれるはずです。

部活動を引退した3年生は、今、モードを受験に切り替えて、頑張っているところだと思います。そして、この夏は、**苦手の克服**や、**二次対策の充実**に向けて、自分を前進させるまたとないチャンスです。多くの先輩たちが、3年の夏に壁を乗り越え、また、夏の努力によって自信を付け、本格的な受験モードになっていきました。

40年前の夏、高3生だった私も、バレーやバスケットとともに部活動を頑張ってきた友人たちと、毎日学校に来て励まし合いながら、受験勉強に取り組みました。私自身は、化学を克服することができ、自信を付けた夏でした。東高生と同様に、私も、運動会に一生懸命取り組みましたので、夏休み中に得意科目ができたのは幸いでした。

5月に発行された「明教通信」には、この春に卒業した先輩からの寄稿文が掲載されています。その先輩の、部活動を引退してから、夏休み、運動会、受験へと向かった日々の取組が、皆さんのよいアドバイスとなると思い、その文章の一部を紹介します。

私は6月に総体で敗れて部活を引退し、なんとか勉強モードに切り替えようとしたのですが、東高にはまだ一大イベント、運動会が残っています。行事の盛り上がりで憧れて東高に入学した人もいるだろうし、3年生は主体となって活動して、とても忙しいので、運動会の準備期間に勉強と両立しろとは、とても言えません。目一杯楽しみたい人は、それまでに、ぜひ勉強の貯金をしておきましょう。運動会前にこれだけ勉強したのだという自覚があれば、メリハリを付けて楽しめるはずです。また、私は、期間中も、単語帳を開いたり数学の問題を解いたりするなど、勉強の習慣はなくさないようにしました。(令和6年3月卒業 堀内晴希さんの文章から。)

紹介した部分以外の文章も、大いに参考になると思います。ぜひ、「明教通信」を読み返してみてください。

1・2年生も、次に来る皆さんの番に備えて、いろいろなことを先輩たちの言動から学び取ってほしいと思います。夏休みは、各学年それぞれに、学習や部活動において自分を成長させることのできる、重要な時期です。進学を意識して、多くの人が**オープンキャンパス**に行きますし、時間をかけて**苦手な科目を克服**することができます。3年生には、高校生活最後の夏を、悔いのないものにしてほしい、そう願っています。

県総体から夏休み、運動会、受験へと続く東高生の頑張りを期待しています。